本物の体験交流が育む

和歌山県・日置川

南紀州ほんまもん体験と民泊

海かがやき 山ひびく 清流日置川の里

和歌山県白浜町は紀伊半島の南部に位置する歴史ある温泉地。その温泉街から南下すると、温暖で山、川、海に囲まれた「ほんまもん体験と民泊の里」日置川エリア。

「ほんまもん体験」は、生徒の皆さんが主人公であり、地元で生業としている者、技術があり精通している者がインストラクターとなり、準備から後片付けまで指導します。ありのままの暮らしや自然の中で、技術や知識を伝え、地域の誇りや生き様、喜び、苦労や課題も全て伝えることにより、農林漁業への深い理解が生まれ人間的な交流の場になり、生徒たちは大きな達成感を得て活き活きとした表情に変わります。

ほんものの味を教わる民泊での食事風景

◆日置川エリアの体験プログラム

世界遺産熊野古道トレッキング、紀州備長炭作業、林業間伐、清流日置川のプログラム、一本釣り、梅プログラム、味覚体験、紀州藍染など和歌山の伝統文化に根ざした体験が全てそろい、40種目あります。

◆アクセスが良くなり紀伊半島が近くなる

2015年度に高速道路が開通し、日置川インターまで新大阪から車で約2時間半。

JRの協力を得て新大阪発「特急くろしお」が紀伊日置駅に臨時停車。所要時間2時間40分。日置駅前広場で入村式、離村式が可能に。

魚さばきに果敢に挑戦

指導を受けて梅のせん定

◆農林漁家生活体験（民泊）

民泊協力家庭が一地域内で100軒あり、対面以内で到着。1軒に4人として320人の受け入れが可能です。

各民家では、お客さまではなく家族の一員としてお迎えし、作業を手伝い、田舎料理を学び、祖父母の世代と交流し、家庭の団欒を味わい「心豊かな田舎の暮らし」を体験します。「まだ帰りたくない」と言いながらの離村式は互いの心の高まりを最高に感じるひと時です。

また、地域内には10軒の民宿があり、男女別、クラス別の分宿でご利用いただけます。

◆おすすめ体験プログラム

紀州備長炭の作業体験

和歌山県の無形文化財である紀州備長炭づくりを通して、森を守りながら利用する自然との共生、人々の知恵、伝統産業を学びます。「窯だし」は1300度の熱い炎との戦いであり、灰まみれになりながらの貴重な作業体験です。

林業間伐体験

紀州木の国と呼ばれ古くから杉桧の良質材の産地であり、環境学習として山を守り育てる大切さを学びます。山の手入れの一つ、間伐作業ではのこぎりを使って木を倒し、危機管理も学習。安全に十分配慮したプログラムです。

世界遺産熊野古道トレッキング

町を横断する熊野古道大辺路街道、中央を流れる日置川を手漕ぎ舟で渡り、熊野詣でが盛んだった頃の時代背景に思いをはせながら語り部とともにいにしえの旅を再現してみましょう。古道の自然環境も学びます。

炎熱と戦い備長炭窯だし体験

南紀州交流公社では、民泊研修会や地区懇談会を開催し品質向上を図り、保健所、消防署、警察署による講習会を実施し、安全管理、衛生管理を徹底しています。

特に災害時避難地図を作成し、緊急連絡体制を整え安全対策には万全を期しています。ワンストップサービスで安全でスムーズな受け入れ実施を推進し、地域一丸となって取り組み、皆さまのお越しをお待ちしております。

一般社団法人 南紀州交流公社
担当者：佐本真志
〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居306-1
TEL 0739-53-0055　FAX 0739-53-0055
E-mail: minamikishu@samba.ocn.ne.jp
URL http://www.minamikishu.com

和歌山県

ありのままが自慢です

和歌山「ほんまもん体験」の修学旅行

和歌山県では、体験交流型プログラム「ほんまもん体験」を活用した体験型の修学旅行をご提案しております。この「ほんまもん体験」とは、和歌山が持つ豊かな自然、深い歴史や文化を、その地域に住む人々との交流を通じて体感していただくプログラムの総称であり、特に教育的効果の高いプログラムを修学旅行用に厳選しております。

地域の生活にふれ、家族の一員として過ごす民泊

ほんまもん体験の修学旅行での大きな魅力は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された高野山や熊野古道、「ラムサール条約」に登録された世界最北限のサンゴ群落を見ることができる串本沿岸海域など、世界が認めた地域での体験ができることがあげられます。また、体験を通して地域在住のインストラクターとの交流も深まり、心温まる思い出となることでしょう。

魅力いっぱいの、ほんまもん体験の中から、ぜひ修学旅行で体験してほしいおすすめのプログラムを紹介します。

◆民泊体験

近年、特に人気が高まっている和歌山の民泊体験。県の中域に位置し、のどかな農村地域であると共に、防災対策や衛生対策の徹底にも努めております。

民泊受け入れ地域では、周辺一体となって生徒の皆さんを受け入れすだくことができます。

日高川町と印南町、山、川、海の自然豊かな白浜町日置川地域、本州最南端の地、黒潮おどる串本町と3カ所あります。一緒に食事を作って食べるなど、家族の一員として過ごしていただき、自然と共生している地域ならではの生活にふれていただくことができます。

◆梅もぎ&梅干し、梅ジュース作り

和歌山県は、優れた食味を持つ南高梅の発祥地であるとともに、全国一の梅産地として知られています。

全国一の梅産地で梅干作り体験

梅もぎ体験は、6月の収穫期に南高梅の園地に入って、自分の手で果実を収穫することができます。また、梅干作り体験では、天日干しなどの生産工程の一部を体験したり、調味液で味付け体験をすることができます。梅ジュース作り体験では、南高梅と砂糖を使って、おいしい手作りジュースを作る体験をしていただけます。

梅のトップブランド「紀州産南高梅」の収穫や加工を通じて、梅への知識を高めて下さい。

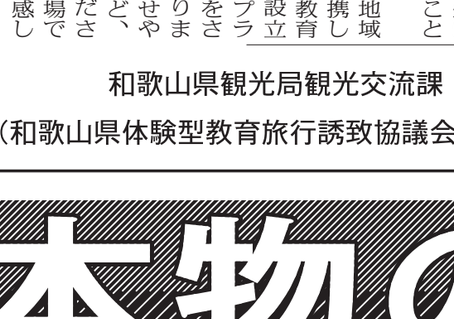
◆ドルフィンスイミング

水族館のトレーナーのようにイルカとコミュニケーションをとったり、イルカの背びれにつかまって一緒に泳いでみたり、調味液でのような体験ができます。

イルカとのふれあいを通じ自然環境への関心を高め

イルカとのふれあいを通じて、自然環境への関心を高め、生物との共生について理解を深めることができます。

和歌山県では、各地域の受け入れ組織が連携して、和歌山県体験型教育旅行誘致協議会を設立し、皆さんの下見やプランニングのお手伝いをさせていただいております。資料のお取り寄せや下見現場での随行など、お気軽にご相談ください。そして、ぜひ現場でほんまもん体験を体感してください。



上＝体験メニューの一つパイン収穫とジャム作り
下＝お母さん方が講師の料理体験

ほかにも文化体験では、農業をしているオジーが講師のパイナップル収穫や専業主婦のお母さんが講師の料理体験といった、実際その仕事をしている人が講師なので、本物の体験ができるのも弊社のこだわりです。

修学旅行で環境教育！地域が先生であり教室でもあります。私達は自然が発しているメッセージを伝える〝インタープリター〟（仲介者）だと考えます。

私達が、より良い未来を創るために求められているのは自然との共生。希少動物が棲む森やそこで暮らしている人、そしてマングローブが生い茂る川……やんばるの自然を学ぶことで、地球で生きることの真実が見えてくるはずです。

やんばる自然塾
営業時間　8：00～18：00
定休日　元日
〒905-1205 沖縄県国頭郡東村字慶佐次82番地
TEL 0980-43-2571　FAX 0980-43-2585
E-mail info@gesashi.com
URL http://www.gesashi.com/

長崎県・北松浦半島

豊かな心を育む感動体験

ほんまもん体験 松浦党の里

今日、科学の対象は多岐に分かれ、さらにそれぞれの分野で細分化と専門化が進行し、高い基礎学力が求められる傾向が強まっているようです。この科学の繁栄は、ヒトが世代を重ねながら高度化してきた社会という基盤の上に開花したにも関わらず、今日では成人になるまでに会得すべき社会性や人間性、人格などを育む機会の減少が懸念されています。

家族の優しさに触れる農村民泊

個の確立にとっては、異年齢を含む多くの人々からの伝承や教示が極めて重要です。多くの人々との密接な交わりから、大人になるために大切な多くのことを学ぶ必要があります。そうして大人になり、後輩や我が子に必要な社会性や人間性、人格を授けてやり、さらに次の世代へつなぐ責任を担うことが求められています。

私たちは、自然や地域社会、家族、農水産物などの食料生産の現場といった豊かな人間形成に不可欠なものを通して高校生の「食育」や、一人一人の「こころ」と「人格形成」のお手伝いをします。

人格は健全な肉体と不可分のものです。本人の健康のみならず健全な命を後世につなぐための食育は、人類普遍の根源的テーマです。食育にとって自然環境と食料生産の現場を知ることは、極めて重要な基本と位置づけ対応しています。

修学旅行で訪れる高校生は、自分の力で見知らぬ人と心を通じ合おうと努力します。生徒には恐らく初めての経験です。生徒たちは農漁業などの食料生産に関わる体験や、民泊する農漁家などでの夕食づくりを通して自然と食料、食文化、家庭、家族などを深く知ることとなります。互いに気遣いながら1晩か2晩を家族の一員として過ごすなかで心地よい人間関係を築いていきます。わずか数日の滞在の間に、「こころ」通じ合うことのすばらしさや比類なく貴いものを自らの力で発見し、感動し心高まり大きな自信も得ています。

これまで知識としては入ったものの身につかなかったことが、ここでようやく得心に至るのです。こうして、人格が高まることで周囲の人の「食育」や生活、進路に対する助言などに関する情報から素直に学べるようになると考えています。

人格形成の大切な時期にこのような経験をし、人間関係に迷うことなく自信に満ちた進路を開拓するようになることがこの修学旅行の目指す成果です。これが私たちの願いであり、このように貴いことに携わることがこのうえない誇りです。

この、互いに「高まる」価値を創り出す努力に対して対価があり、料金はこのような貴い教育効果への対価です。決して単なる宿代や体験料であってはならないと考えています。

私たちは、日本の未来を担う青少年の人格形成のため、自信と誇りを持って努めます。ご利用を心よりお待ち申し上げます。

松浦党の里ほんなもん体験　修学旅行モデルコース 3泊4日
松浦2泊コース（民泊2泊・2体験プログラム）

日次	行程	宿泊地
1	各空港（機内弁当）→ 福岡空港（11:00頃）＝ 都市高速～太宰府IC（11:30）＝ 金立SA（休憩）（12:40）＝ 長崎平和学習（13:00）＝ 長崎市内ホテル（14:30）（17:00）（17:20）	長崎
2	ホテル（9:00）＝ 松ケ枝駐車場（9:20）… 班別自主研修 … 松ケ枝駐車場（14:30）＝ 大村湾PA ＝ 佐々IC ＝ 川登SA ＝ 武雄北方IC ＝ **松浦党の里 対面式** ※民泊家庭とご対面（17:00）	農漁村民家ステイ（1家庭4～5名）引率者宿舎…近隣の旅館・民宿・ホテル
3	**各民家より集合**（8:00）＝ 午前 **ほんなもん体験**（8:30～11:30）＝ **松浦党の里**（昼食・休憩）（12:00）（13:00）＝ 午後 **ほんなもん体験**（13:30～16:30）＝ **各民家へ**（17:00）	
4	**各民家より集合** 離村式（8:30）＝ 武雄北方IC（10:00）＝ 金立SA（休憩）（10:20）＝ 太宰府IC ＝ 太宰府天満宮（11:00）（13:00）＝ 都市高速 ＝ 福岡空港（14:00頃）→ 各空港	

一般社団法人 まつうら党交流公社
〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免1808-1
TEL 0956-27-9333　FAX 0956-27-9334
E-mail:kouryu-1ban@matsuurato.jp
URL http://www.honmono-taiken.jp

沖縄県・やんばる

住民主導のエコツーリズム

「自然と人を体験しよう」

やんばるを代表するプログラム・マングローブカヌー

やんばる（山原）とは、緑豊かな亜熱帯の森が広がり貴重な動植物が棲んでいる沖縄本島北部地域のことで、東村は県都那覇市から約90キロ、所要時間が約2時間かかりパインアップル栽培のさかんな人口約1800人の農村です。また、やんばる自然塾の活動拠点である慶佐次（げさし）区は慶佐次川の河口に位置する人口は約180人の小さな集落、河口の汽水域には沖縄本島最大のマングローブが広がりそこの植物群落は「慶佐次湾のヒルギ林」として国の天然記念物に指定されています。

団体向け体験プログラムは「慶佐次川カヌー体験とマングローブ観察」「慶佐次湾シーカヤックとマリンクラフト」「やんばるの森トレッキング」「パイン収穫とジャムづくり体験」「沖縄料理体験」「三線体験」など13プログラムを用意しています。

その中でも代表的なプログラム、慶佐次川カヌー体験とマングローブ観察は潮位に合わせ環境にも配慮し、生き物目線でマングローブを間近に感じる事のできるプログラムです。また干満の差が大きいことから川の時間と干潟の時間という二つの顔があり、汽水域には淡水生物、海水生物が混在し生物多様性が豊富なフィールドです。

やんばるの森トレッキング

マングローブトレッキング

修学旅行は8割がリピーター校でその割合からもプログラム満足度には一定の評価を頂いています。

修学旅行で環境教育！地域が先生であり教室でもあります。私達は自然が発しているメッセージを伝える〝インタープリター〟（仲介者）だと考えます。

私達が、より良い未来を創るために求められているのは自然との共生。希少動物が棲む森やそこで暮らしている人、そしてマングローブが生い茂る川……やんばるの自然を学ぶことで、地球で生きることの真実が見えてくるはずです。

やんばる自然塾
営業時間　8：00～18：00
定休日　元日
〒905-1205 沖縄県国頭郡東村字慶佐次82番地
TEL 0980-43-2571　FAX 0980-43-2585
E-mail info@gesashi.com
URL http://www.gesashi.com/

和歌山県観光局観光交流課
（和歌山県体験型教育旅行誘致協議会事務局）
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL 073-441-2785　FAX 073-427-1523
E-mail:e0625001@pref.wakayama.lg.jp
URL http://www.wakayama-kanko.or.jp/